

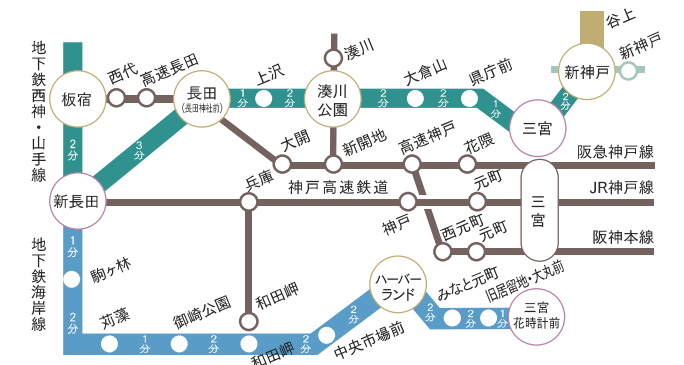
## 兵庫区歴史さんぽ道シリーズ

# 大輪田泊

平清盛の日宋貿易の港を訪ねて



## コース周辺鉄道路線案内



- 市営地下鉄他社線のりかえ駅
- 市営地下鉄西神・山手線／海岸線のりかえ駅、他社線のりかえ駅

## ● 本コースの最寄り駅 ●

- 市営地下鉄海岸線「中央市場前駅」(「三宮・花時計前駅」より約7分)・「和田岬駅」(「三宮・花時計前駅」より約9分)
- JR「兵庫駅」(「三ノ宮駅」より約7分)・「神戸駅」(「三ノ宮駅」より約4分) ※運行時間に注意

発行／神戸市兵庫区役所  
協力／神戸市教育委員会  
平成25年3月発行(令和6年3月改訂)

KOBE CITY OF DESIGN

リサイクル適性(A)  
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

この散策マップは、古紙配合再生紙を使用しています。

## 輪田(和田)京計画

治承4年(1180)6月～11月にかけての、安徳天皇らの福原滞在は、「福原遷都」と呼ばれていますが、新しい都が出来上がってからの遷幸ではありませんでした。6月2日、安徳天皇、高倉上皇、後白河法皇を伴って京を出立した平清盛は、ただちに都造営の計画を立案します。

当初、都の造営が計画されたのは、輪田(和田)の地でした。6月9日に大納言・藤原実定らが輪田の遷都計画地に派遣され、地域の調査にあたっています。しかし、左京は土地が不足し、右京は平地がほとんどないといったことなどから、6月15日には、早くも輪田京の構想は挫折しました。

この後、小屋野(現在の伊丹市昆陽)や印南野(現在の加古川市から明石市にかけての印南野台地)への遷都も計画されますが、いずれも却下されました。ようやく7月半ばになって、清盛は「福原、しばらく皇居となすべし。道路を開通し、宅地を人々にたまうべし」という方針を出しました。

輪田京の条坊はどのように想定されていたのでしょうか。古くは山陽道を中心軸として想定する説もありましたが、これでは「天子南面」の原則に反することなどから、現在は大輪田泊を取り込むかたちで、平城京や平安京と同じように、真北を基準に南北に真っ直ぐの宮都を想定する、歴史地理学者・足利健亮の説が通説となっています。この説によると、輪田京は、現在の兵庫区と長田区の南部一帯に構想されたことになります。

しかし、輪田京もやはり福原を中心とし、大輪田泊を含まないかたちで構想されたのではないかとする説もあります。嘉応2年(1170)、宋船が大輪田泊に来航した際、後白河法皇が直接宋人に会っていますが、それを聞き、驚いた九条兼実は、その日記「玉葉」に「天魔の所為か」と記しています。排外意識の下にあり、天皇が直接外国人に直面することがなかった当時、外国人が行き来する国際貿易港・大輪田泊を含む都を構想することなど、公家らにとって、全くありえなかったのかもしれませんが、いずれにしても、輪田京は、短時間で撤回された幻の都といえます。

※遷幸…新都に天皇が移ること  
※左京／右京…都の中央を南北に通る基盤大路の東側が左京、西側が右京  
※条坊…古代の都城における基盤目状の土地区画  
<参考文献>新修神戸市史編集委員会編『新修神戸市史歴史編Ⅱ』須藤宏『和田之京』城の再検討

## 経ヶ島の人柱説話

『平家物語』によると、経ヶ島築造の際、築いた石が暴風雨で崩壊します。そこで公卿らは古いより、人柱をたてようとするのですが、平清盛が、人柱をたてることによって安易に人の命を奪うことは罪深いとして退け、経文を書いた石を沈めることで工事を進めたとあります。『平家物語』では、悪役として描かれることが多い清盛ですが、この「築島」の章段では、人命を尊びかつ合理的な一面が描かれています。一方、13世紀に成立した『源平盛衰記』や14世紀後半頃に成立した『帝王編年記』には、海神(海龍)をなだめるため、人柱をたてたという記述があります。

経ヶ島の人柱をモチーフにしたものに、室町時代の舞楽・幸若舞の舞曲「築島」があります。この「築島」では、築いた石が流されたため、清盛は、陰陽師・安部泰氏の進言により、旅人を捕らえて30人の人柱をたてようとする。最後に捕えられたのは、生き別れになっていた娘・名月女を探す国春という修行者でした。国春と名月女は兵庫で再会し、名月女が国春の身代わりになることを訴えます。そのとき、清盛の従者の少年、松王丸が30人の身代わりとなり、法華経とともに海に沈むことを申し出て、清盛がそれを許したため、捕えられた30人は無事解放されました。こうして、松王丸が人柱となって、島が完成します。

経ヶ島に人柱をたてたのが史実であったか否か、定かではありませんが、この伝承は、富と権力を有する清盛をもってしても、人工島の築造が大変な難工事であったことを物語っています。  
<参考文献>神戸市立博物館編「特別展 東アジアから神戸へ 海の回廊」

## ■ 関連年表

1159年(平治1)	平治の乱
1162年(応保2)	平清盛が摂津国八部郡の検注を命じる
1169年(嘉応1)	平清盛が福原に居を構える
1170年(嘉応2)	宋船が大輪田泊に来航
1173年(承安3)	平清盛が大輪田泊に経ヶ島を築く
1179年(治承3)	平清盛が兵を率いて上洛し、後白河法皇を幽閉
1180年(治承4)	2月 安徳天皇即位 5月 以仁王が挙兵を計画 6月 天皇らが福原へ赴く(福原遷都) 8月 源頼朝が伊豆で挙兵 11月 京都へ還都
1181年(養和1)	平清盛 死去(64歳)

## E 清盛塚 きよもりづか

弘安9年(1286)の銘がある、清盛塚と呼ばれる高さ約8.5mの石造十三重塔は、兵庫県の重要文化財に指定されています。延宝8年(1680)の『福原びんかがみ』には、鎌倉幕府第九代執権・北条貞時が建立したと記されています。かつては平清盛の墓所であると考えられていましたが、大正11年頃、市電の道路拡張工事のために清盛塚の移転問題が生じ、大正12年に地下を調査した結果、墳墓でないことが確認されました。石塔の横には、昭和43年に柳原義達作の平清盛像が建てられました。



## F 薬仙寺 やくせんじ

薬仙寺の境内には、萱の御所跡の礎が残されています。元々礎は運河のところにありましたが、運河の拡張工事により寺内に移されました。『福原びんかがみ』には、萱の御所は牟の御所とも記されており、平清盛が後白河法皇を幽閉した場所と伝えられています。伊豆国に流された際に、源頼朝と出会った文覚上人は、後に萱の御所に忍び入り、後白河法皇より院宣を授かり、頼朝に平家追討を勧めたといわれています。(写真:本堂に向かって左前)※院宣…上皇及び法皇の命を奉じて出す文書



## G 和田神社 わだじんじや

神代の昔、蛭子大神が淡路から和田岬に上陸したといわれ、元は現在の地から南西に約800mの海岸に鎮座し、「蛭子の森」と呼ばれていました。承安3年(1173)、平清盛が大輪田泊修築の際に、事業の無事と兵庫の地の繁栄を祈願して、この地に安芸国厳島神社より、市杵嶋姫大神いわゆる、弁財天を勧請したといわれています。  
※勧請…神仏の分身・分霊を他の地に移して祀ること



## コラム

## 平清盛と大輪田泊

平清盛が大輪田の地に進出したことが確かめられるのは、平治元年(1159)の平治の乱から3年目の応保2年(1162)です。清盛が武士の第一人者となった頃と考えられます。清盛は、摂津国八部郡の国衙領を領有する権利を得たらしく、家司の藤原能盛に八部郡の土地の調査(検注)を命じています。以後、検注を通じて多くの荘園に勢力をのぼし、八部郡を支配しました。清盛は、太政大臣を辞し、病の後に出家した翌年にあたる嘉応元年(1169)までには福原に居を構えたと考えられます。

清盛が京を離れ、福原に移った理由には、南に国家的な要港・大輪田泊があり、ここを拠点に宋(中国)との貿易を進めようとしたことがあったものと考えられます。当時、外国船の対応は博多で行われ、大宰府が外国貿易を管理していましたが、嘉応2年(1170)9月には、宋船が大輪田泊に来航しています。承安2～3年(1172～1173)には、日宋間での貿易本格化へ向けての交渉が行われ、清盛が大輪田泊の改修に着手したのは、承安3年頃と考えられています。

清盛は、港に風よけ波よけのため、経ヶ島(経の島、兵庫嶋ともいう)と呼ばれた人工島を築きました。経ヶ島の呼び名の由来は、人工島の築造が難工事であったため、経文を書き写した石を海に沈めて工事が進められたためで、『平家物語』にこのような記述がみえます。



新川運河に架かる大輪田橋

※摂津国八部郡…現在の神戸市中央区西部・兵庫区・北区の一部・長田区・須磨区あたり  
※国衙領…公領・国領ともいう  
※家司…貴族の家政機関の職員  
<参考文献>歴史資料ネットワーク編『歴史のなかの神戸と平家』

## コース案内

## 史跡を巡りながら、大輪田泊の繁栄に思いをはせる。

大輪田泊と呼ばれた兵庫の港は、古代より天然の良港として栄え、平安末期には平清盛が日宋貿易の拠点とするため港を修築し、船の風よけ波よけのために、人工島・経ヶ島を築きました。

この散策マップでは、大輪田泊の繁栄を偲びながら、清盛の足跡をたどります。

## A 来迎寺(築島寺) らいこうじ(つきじまでら)

平清盛が経ヶ島を築造する際、幾度も暴風大波のために破壊され、工事はなかなか成功しませんでした。海神の怒りをなだめるため、30人の人柱をたてることになりましたが、17歳の松王丸が申し出て、進んで人柱になったと伝えられています。けなげな松王丸の菩提を弔うため、二条天皇の勅命により建立され、念仏の道場としたのが、この寺であるといわれています。境内には、松王丸の供養塔が残されているほか、清盛の寵愛を受けた愛人・妓王と妓女の墓も残されています。(写真:門に入って直ぐ右側)



## B 古代大輪田泊の石椋 こだいおおわたのとまりのいわくら

大輪田泊は、奈良時代に行基が修築したと伝えられ、遣唐使船の寄港地や平清盛による日宋貿易の拠点となりました。この巨石は昭和27年の新川運河の浚渫工事の際に出土し、清盛が築いた経ヶ島の遺材ではないかと考えられていました。しかし平成15年にこの石材が発見された場所から北西約250mの場所で調査が行われた際、奈良時代後半から平安時代中頃の港湾施設と考えられる遺構と建物の一部が発見されました。これにより、この巨石は古代の石椋の石材であったと推定されます。  
※石椋…石を積上げた防波堤や突堤の基礎などの港湾施設



## C 金光寺 こんこうじ

「兵庫の薬師さん」として知られる金光寺は、『平家物語』や『源平盛衰記』によると平清盛が経ヶ島築造に着手した年とされる承安3年(1173)の開基とされています。

清盛が、夢枕に立った童子のお告げにしたがって、大輪田の海に網をおろさせたところ、海中より金色の薬師如来像が引き揚げられ、これを本尊として建立したのが、この寺であると伝えられています。



## D 能福寺 のうふくじ

兵庫大仏で知られる能福寺は、平清盛が出家した寺であるといわれています。『平家物語』によると、養和元年(1181)に京で没した清盛の遺骨を、この寺の住職・円実法眼がこの地に持ち帰ったとされています。境内には平清盛廟が残されていますが、遺骨の行方は定かではありません。平教盛の子で清盛の甥にあたる比叡山の学僧・大教房は、壇の浦の戦いで捕らえられ、後に小川忠快法印と称し、この寺の住職となりました。





# 大輪田泊

平清盛の日宋貿易の港を訪ねて

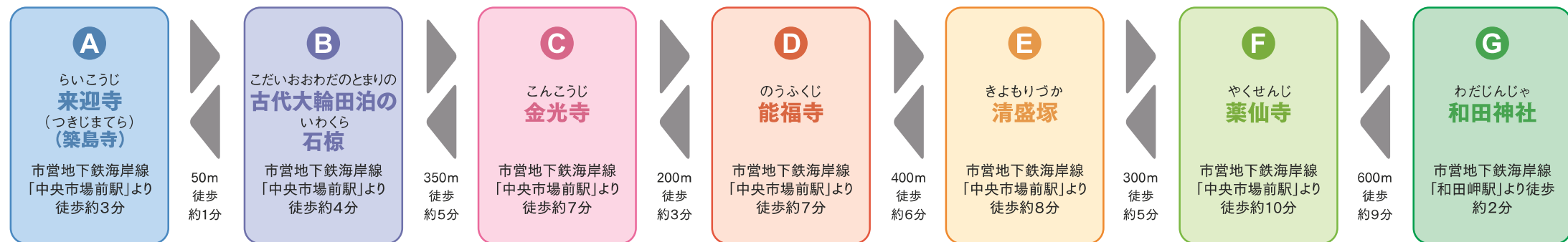
## MAP



- 【凡例】
- 西国街道
  - 散歩道コース
  - ♂ ♀ トイレ
  - 公園
  - 地下鉄
  - ♀ バス停
- ★ は日本遺産認定の関連史跡があります



### ■ 大輪田泊～平清盛の日宋貿易の港を訪ねて モデルコース(約1,900m:消費カロリー約57kcal)



### コース付近のみどころ

#### 七宮神社 MAP ①

平清盛が経ヶ島を築くために、塩樋山という山を崩したといわれています。山に祀られていた神の怒りにふれぬように七宮神社を移築し、港の安全を祈願したと伝えられています。



#### 鎮守稲荷神社 MAP ②

平清盛の甥・平経俊は、一の谷の戦いのときに戦死しました。鎮守稲荷神社には、経俊を供養する五輪塔が残されています。(写真:鳥居(入口)の右側)



#### 福海寺 MAP ③

平清盛が好んだ時雨の松は、青葉から玉露の滴を垂らし、霊験あらたかであったといわれ、また清盛の隆盛を導いたと伝えられています。今は松はなく、碑だけが福海寺に残されています(写真:門をいって左側)



#### 真光寺 MAP ④

平清盛が安芸国厳島神社を勧請して祀った七つの弁財天のひとつ。時宗の開祖・一遍上人が入寂した地であり、境内には上人の廟所があります。  
※上人の廟所は本堂手前



#### 阿弥陀寺 MAP ⑤

平清盛が魚を供養した魚御堂の礎石と伝えられる巨石が残されています。また、この巨石は湊川の戦いの際に、足利尊氏らが楠木正成の首あらためをした石だとも伝えられています。



#### 清盛塚 MAP ⑥

清盛塚に程近い、兵庫運河に架かる橋で、昭和62年の架け替えの際、市民の要望により清盛橋と名づけられました。欄干には源平合戦などのレリーフが取り付けられています。

